



モンゴル・ウランバートル市

住民の切実な声を 開発に反映できるか

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



これはウランバートル市の貧しい「ゲル」地区で最近開かれた住民集会の様子である。

ゲル地区の生活環境を改善する同市の計画は残念ながらうまく進んでいない。住民に手の届かぬ高層マンションの建設など、再開発の計画に住民の意向があまり反映されていないことも背景にある。これを受けて同市は最近、住民との議論を深めようとした集会を開いている。

住民の関心は高かった。これまで十数カ所で集会が開かれたが、出席者が多すぎて、急ぎよ会場が役場から広い小学校の講堂などに移されることも多い。参加者数は延べ1000人に至った。集会では生活実態調査の結果も報告され、対話の機会が設けられたことについても出席者の意見はおおむね好意的だった。

一方、生活への不満や公共サービスの改善を望む声は強く、発言する参加者が後を絶たなかった。たとえば、月に一度ほどしかゴミ収集が行われないため、至る所に山積しているゴミを撤去してほしいという要望。家の敷地に穴を掘っただけの非衛生的な小屋掛けトイレを改善するため、下水道が必要だという意見など、さまざまな問題が提起された。

集会后には、参加者のほぼ全員が質問表に丁寧な回答を提出した。住民の真剣な思いを改めて感じさせられる光景であった。(写真も筆者)